

二〇一八年二月一六日

展けたる海真つ平ら梅の丘
唄ひつつスキップする子雛飾る
蛸壺の野積みの山に斑雪
魁の上枝の梅を指されけり
川岸の芽柳に風生まれけり

二〇一八年二月一五日

浜風にはためく幌は牡蠣打ち場
春光の川面は切子揉むごとし
日に溶けて目鼻くずれの雪だるま
春陰にギターつまびく楽士かな
花菜畑一輛電車風連れて

二〇一八年二月一四日

金紙揉む淀のさざなみ風光る
狛犬のくしやみしさうや藪椿
願い絵馬相打ちあへる春疾風
牡蠣打女弾むよもやま話かな
日に匂ふ潮の香りや若布干す

二〇一八年二月一三日

町長屋ここも空家にうそ寒し
雪壁の道抜けて訪ふ道の駅
ヨガ修行百畳敷の堂寒し
目の笑ふマスクどうしの会釈かな

二〇一八年二月二日

この深雪朝刊取りに長靴で
二〇一八年二月一日
雪の宿母の初恋噺など
絶え間なき雪解しづくや鎖樋
雪吊りの縄八方へ緊張す
矢のごとく馳せるは魚影水温む
老木の矜持を見よや梅真白
戦なき幸な忘れそ建国日

二〇一八年二月一〇日

根性の曲りしもあり軒つらら
一水にめぐる庭園風光る
ひと刷毛に大書せしごと春の雲
昨夜の雨凍てて沈黙鎖樋
水琴窟聞かむ深雪に膝つきて
春光に金の鯉反りに反る
と見る間に細る中洲や雪解川
春光へ鯉ゆつたりと向き変ふる

菜々々
よし女
智恵子
さつき
宏 虎

菜々々
智恵子
はく子
そうけい

よし女

更紗
たか子
たか子
よう子

宏 虎

菜々々
たか子
菜々々
ぽんこ
せいじ
菜々々
ぽんこ
たか子
はく子

菜々々
智恵子
はく子

毎日句会みのる選・二〇一八年二月一八日